

2023 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)		共通科目	
授業科目名	権利擁護と成年後見制度	担 当 教 官 名	五百木 孝行		
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15コマ		
授業のキーワード	権利擁護 成年後見制度 社会福祉基礎構造改革 自己決定 意思決定支援 利用促進計画				
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉基礎構造改革により、「措置」から「契約」へのパラダイム転換を経て、福祉サービスを「購入」するために、質の良いサービスの供給や苦情解決、契約能力の確保など、従来とは異なるサービス利用の下支えが必要となった。そのための仕組みを理解することが、本講義の目的です。</p> <p>権利擁護と成年後見における意思決定支援による自己決定権とエンパワメント。自己責任と公的責任つまりはサービス利用と公的介入などについて、ソーシャルワークの思想を背景に学習を進めていきます。</p> <p>ソーシャルワークの担い手として身につける必要のある成年後見制度、権利擁護制度。憲法、行政法、民法、消費者の法制度について学習を深め、権利擁護の担い手の役割などについて理解する。また現在、成年後見制度は、利用促進基本計画が実施されており、その現状についても学習し、理解することを目標とします。</p>				
講義計画・内容	<p>第1回:はじめに～ソーシャルワークと法のかかわり 第2回:ソーシャルワークにおける主要な法(1)～憲法の理解 第3回:ソーシャルワークにおける主要な法(2)～民法の理解(1) 第4回:ソーシャルワークにおける主要な法(3)～民法の理解(2) 第5回:ソーシャルワークにおける主要な法(4)～行政法の理解 第6回:成年後見制度(1)～後見 第7回:成年後見制度(2)～保佐・補助及び義務と責任等 第8回:成年後見制度(3)～任意後見・未成年後見 第9回:権利擁護にかかわる組織・団体(1)～家裁・法務局 第10回:権利擁護にかかわる組織・団体(2)～自治体・社協・児相など 第11回:権利擁護にかかわる専門職(1)(2)～社会福祉士・弁護士など 第12回:権利擁護の意義と支える仕組み 第13回:権利擁護活動と意思決定支援 第14回:今後の権利擁護と成年後見制度 第15回:全体のまとめ</p>				
準備学習	<p>権利擁護と成年後見制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。特に、憲法、行政法、民法などの主要な法の基礎的な理解を深めるために教科書の理解は大切です。また社会福祉基礎構造改革の内容について教科書等で事前学習をしていただくことも大切です。</p>				
教科書・教材等	<p>『権利擁護を支える法制度』 中央法規出版株式会社 『社会福祉小六法』(最新版) ミネルヴァ書房</p>				
授業の形式 教育機器の活用	講義				
成績評価の方法	定期試験 100%				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>権利擁護と成年後見制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための法律や制度等の知識だけでなく、なるべく福祉現場で役に立つ実務経験の話などもしていきたいと考えています。実務現場をイメージして授業に積極的に取り組んでください。</p>				

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)		共通科目			
授業科目名	現代社会と福祉	担 当 教 官 名	吉岡 祐紀/各務勝博				
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年				
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回				
授業のキーワード	現代における社会福祉の意義 社会問題と福祉政策 福祉政策の背景						
授業の概要 及び到達目標	<p>本授業では、主に社会福祉政策へと焦点を当てた授業を展開する。政策への解説に加え、政策の背景や歴史的経緯なども踏まえて社会福祉政策を連続性のある対象として捉えられるようになることを到達目標としている。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉政策の意義について理解できる。 2. 社会問題や歴史的経緯など、政策の背景を踏まえた立体的な理解ができる。 3. 政策から実践、福祉分野から他分野など横断的な視点を習得できる。 <p>【実務者経験】</p> <p>2005年 社会福祉士 取得 2017年 主任介護支援専門員 取得 2017年 社会福祉学修士号 取得 2007年 京都市勤修地域包括支援センターでの社会福祉士業務を経て、 2014年より、かんしゅうケアプランセンター:主任ケアマネジャー 現職に至る</p> <p>【実務者経験】各務勝博 2008年 修士「人間科学」取得 2009年 社会福祉士 取得 2013年 社会福祉士実習演習教員講習会 終了 ※1982年～1994年知的障害者施設支援員、1994年～2013年高齢者・障害者への ホームヘルパー派遣コーディネーター、介護支援専門員、訪問介護・居宅介護支援事業所管理者、法人事業統括責任者、職員研修担当者。 大学にて「地域福祉の理論と方法」「福祉行財政と福祉計画」「社会福祉」「相談援助演習」「相談援助実習指導」担当の非常勤講師経験(10年)がある。</p>						
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目の特徴と傾向 2. 現代社会と福祉政策の背景 3. 福祉政策の理念、主体、手法 4. 福祉政策の関連領域① 5. 福祉政策の関連領域② 6. 福祉政策の関連領域③ 7. 社会福祉法制度の体系① 8. 社会福祉法制度の体系② 9. 福祉サービスの提供、利用過程、運営管理 10. 福祉サービスと援助活動 11. 福祉政策と国際比較① 12. 福祉政策と国際比較② 13. 福祉政策と国際比較③ 14. 福祉政策の課題と展望 15. 総まとめ(国家試験を踏まえて) </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代社会と福祉B」の概要 2. 社会の変化と福祉 3. 福祉と福祉政策① 4. 福祉と福祉政策② 5. 社会福祉の思想と哲学① 6. 社会福祉の思想と哲学② 7. 社会政策と福祉政策 8. 福祉政策の発展過程(日本①) 9. 福祉政策の発展過程(日本②) 10. 福祉政策の発展過程(欧米①) 11. 福祉政策の発展過程(欧米②) 12. 少子高齢化時代の福祉政策 13. 福祉政策における必要と資源 14. 福祉政策の現代的課題① 15. 福祉政策の現代的課題② </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目の特徴と傾向 2. 現代社会と福祉政策の背景 3. 福祉政策の理念、主体、手法 4. 福祉政策の関連領域① 5. 福祉政策の関連領域② 6. 福祉政策の関連領域③ 7. 社会福祉法制度の体系① 8. 社会福祉法制度の体系② 9. 福祉サービスの提供、利用過程、運営管理 10. 福祉サービスと援助活動 11. 福祉政策と国際比較① 12. 福祉政策と国際比較② 13. 福祉政策と国際比較③ 14. 福祉政策の課題と展望 15. 総まとめ(国家試験を踏まえて) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代社会と福祉B」の概要 2. 社会の変化と福祉 3. 福祉と福祉政策① 4. 福祉と福祉政策② 5. 社会福祉の思想と哲学① 6. 社会福祉の思想と哲学② 7. 社会政策と福祉政策 8. 福祉政策の発展過程(日本①) 9. 福祉政策の発展過程(日本②) 10. 福祉政策の発展過程(欧米①) 11. 福祉政策の発展過程(欧米②) 12. 少子高齢化時代の福祉政策 13. 福祉政策における必要と資源 14. 福祉政策の現代的課題① 15. 福祉政策の現代的課題②
<ol style="list-style-type: none"> 1. 本科目の特徴と傾向 2. 現代社会と福祉政策の背景 3. 福祉政策の理念、主体、手法 4. 福祉政策の関連領域① 5. 福祉政策の関連領域② 6. 福祉政策の関連領域③ 7. 社会福祉法制度の体系① 8. 社会福祉法制度の体系② 9. 福祉サービスの提供、利用過程、運営管理 10. 福祉サービスと援助活動 11. 福祉政策と国際比較① 12. 福祉政策と国際比較② 13. 福祉政策と国際比較③ 14. 福祉政策の課題と展望 15. 総まとめ(国家試験を踏まえて) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「現代社会と福祉B」の概要 2. 社会の変化と福祉 3. 福祉と福祉政策① 4. 福祉と福祉政策② 5. 社会福祉の思想と哲学① 6. 社会福祉の思想と哲学② 7. 社会政策と福祉政策 8. 福祉政策の発展過程(日本①) 9. 福祉政策の発展過程(日本②) 10. 福祉政策の発展過程(欧米①) 11. 福祉政策の発展過程(欧米②) 12. 少子高齢化時代の福祉政策 13. 福祉政策における必要と資源 14. 福祉政策の現代的課題① 15. 福祉政策の現代的課題② 						
準備学習	事前に該当箇所を教科書で予習することが望ましい。また、該当箇所に関する社会問題についてニュースや新聞等を確認し、自身の中で見識を深める姿勢が求められる。						
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉(第4版)						
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書及び配布資料による講義形式を主とする。また、理解を深めるために個人ワークやグループワークも積極的に取り入れる。						
成績評価の方法	定期試験 100%						
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目は、数ある科目における根本を担う重要な役割を持っています。他の科目にもつながる横断性が本科目の面白さともいえるでしょう。歴史・政策など内容が多岐に渡り理解が難しい用語もあるかもしれませんが、ぜひ興味を持って授業に参加することを望みます。						

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	更生保護制度	担 当 教 官 名	中川るみ
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	8
授業のキーワード	新しい被害者を作らない。		
授業の概要 及び到達目標	<p>更生保護法施行を契機に、刑余者の社会復帰による更生を地域で支え、司法福祉の概念を理解する。</p> <p>(到達目標) 刑事司法の流れを理解し、保護観察所と保護司、他機関連携を学ぶ。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 更生保護制度の遠隔と歴史(練習問題と解説)</p> <p>第2回 施設内処遇と社会内処遇の理解(練習問題と解説)</p> <p>第3回 更生保護の民間の担い手(練習問題と解説)</p> <p>第4回 仮釈放と生活環境の調整と調査(練習問題と解説)</p> <p>第5回 保護観察のあらまし(練習問題と解説) 心神喪失者等医療観察制度と犯罪予防活動(練習問題と解説)</p> <p>第6回 刑務所出所者等就労支援対策の推進・保護観察の終了(練習問題と解説)</p> <p>第7回 応急の救護及び更生緊急保護・更生保護法人と事業について(練習問題と解説)</p> <p>第8回 まとめと終講試験</p>		
準備学習	毎回提出の練習問題の理解		
教科書・教材等	中央法規出版 社会福祉士養成講座20 更生保護制度第4版		
授業の形式 教育機器の活用	講義方式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>社会福祉士養成科目の中では、法学系科目である。 法務省や行政職員の新たな新採用の領域であり、社会福祉士が求められている。</p> <p>ニーズ把握に始まるソーシャルワークのアプローチが今後も期待され、多機関連携の理解と連携を求められる。</p>		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)		専門科目	
授業科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度	担 当 教 官 名	濱田 恵		
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回		
授業のキーワード	介護保険制度 少子高齢社会と高齢者 老人福祉法 チームアプローチ 地域包括ケアシステム				
授業の概要 及び到達目標	<p><到達目標> 高齢者を取り巻く環境や歴史、諸制度を理解し、説明することができるようになる。チームアプローチの必要性について具体的に説明することができるようになる。最終的には国家試験合格レベルを目指す。</p> <p><授業概要> 日本は超高齢社会となり、人々のニーズも多様化している。単に「高齢化が進んでいる」という問題だけでなく、家族関係・地域との関係の希薄化が進み、それに伴う課題が多くある。この科目では介護保険制度だけでなく、高齢者を取り巻く歴史、老人福祉法等の法律・制度等を幅広く学ぶ。また現場実践を聞くことで知識を具体化させる。</p> <p><教員経歴(濱田)> 社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活科学修士 福祉系大学を卒業後、高齢者施設にて介護職(6年)、地域包括支援センターにて相談員(13年)の実務経験をもつ。他大学で相談援助実習指導の非常勤講師(8年)の経験がある。</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明・高齢者の特性 2. 少子高齢社会と高齢者① 3. 少子高齢社会と高齢者② 4. 高齢者保健福祉の発展① 5. 高齢者保健福祉の発展② 6. 高齢者支援の関係法規① 7. 高齢者支援の関連法規② 8. 高齢者支援の関連法規③ 9. 介護保険制度の基本的枠組み① 10. 介護保険制度の基本的枠組み② 11. 介護保険制度の仕組み① 12. 介護保険制度の仕組み② 13. 介護保険サービスの体系① 14. 介護保険サービスの体系② 15. 中間まとめ 	<ol style="list-style-type: none"> 16. 高齢者を支援する組織と役割① 17. 高齢者を支援する組織と役割② 18. 高齢者支援の方法と実際① 19. 高齢者支援の方法と実際② 20. 高齢者を支援する専門職の役割と実際 21. 介護の理念や対象① 22. 介護の理念や対象② 23. 介護過程 24. 介護各論① 25. 介護各論② 26. 介護各論③ 27. 介護各論④ 28. 近未来の高齢者福祉課題 29. 期末まとめ① 30. 期末まとめ② 			
準備学習	テキストの読み込み、各市町村で発行をしている介護保険のガイドブックを読み、介護保険の概要について学んでおく。				
教科書・教材等	『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』 授業中配布する授業資料				
授業の形式 教育機器の活用	講義の他、個人ワーク・グループワークを取り入れる				
成績評価の方法	定期試験 100%				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	高齢者の支援にあたっては、介護保険制度だけでなく、様々な制度や法律の理解が必須です。仕組みが複雑であり、途中、しんどくなることもあるかもしれませんが。講義だけでなく、グループワークも取り入れ、楽しみながら一緒に学んでいきたいと思っていますので、積極的な参加を期待します。				

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	担 当 教 官 名	木村 友香理
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	児童福祉法 社会的養護 児童虐待 子どもの貧困 等		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> テキストに沿った形で講義資料を準備し、適宜、理解度確認のために、小テストを実施。折に触れて時事問題を交えながら全体的理解を深めていく。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士国家試験を見据えた講義内容を展開し、試験で得点できる。 ・児童福祉に係る法・制度・事業について理解し、説明できる。 ・児童福祉を取り巻く現状(少子化、就労構造変化、育児等)について理解し、説明できる。 ・児童福祉に係る各種専門職の役割について理解し、職種内外連携についても理解を深めていくことができる。 <p><教員経歴> 社会福祉士 大学院ではソーシャルワーカーの「過去の語り」から見るストレスについて研究を行う。 福祉実践現場においては、厚生労働省委託の自殺対策電話相談員や児童相談所にて児童虐待電話相談員を経験。 教育分野では、スクールソーシャルワーカーを経験。その他に、専門学校、通信制高校サポート校、大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の全体の流れについて 2. 我が国の子ども家庭福祉について 3. 諸外国の子ども家庭福祉について 4. 日本/諸外国の子ども家庭福祉の歴史① 5. 日本/諸外国の子ども家庭福祉の歴史② 6. 児童福祉法への理解① 7. 児童福祉法への理解② 8. 子育てをめぐる現状/12種の児童福祉施設等① 9. 子育てをめぐる現状/12種の児童福祉施設等② 10. 子ども家庭福祉にかかわる法制度① 11. 子ども家庭福祉にかかわる法制度② 12. 子ども家庭にかかわる福祉・保健① 13. 子ども家庭にかかわる福祉・保健② 14. まとめ① 15. まとめ② 		
準備学習	児童福祉に関する時事問題(新聞記事やニュース報道でも可)へ興味をもち、関連する法律や制度、自治等の取り組みへの理解を深めておくこと。		
教科書・教材等	『新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と資料、小テスト(実力養成問題)による講義		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	近年、児童福祉に関する領域が広がり、理解すべき内容が大幅に増加しています。すべてを詰め込もうとすると苦しくなってきますので、学習内容の要点やイメージを押さえたいような学習姿勢が必要となってきます。また、時事問題なども織り交ぜながら、周辺理解にも努めていきたいと考えます。なお、講義は全体の理解度に応じて順番を前後することや内容を深めるために配分変更を行うことがあります。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門分野
授業科目名	社会調査の基礎	担 当 教 官 名	宮江真矢
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	量的調査 質的調査 調査倫理		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> 社会調査の歴史や目的、方法論や倫理といった社会調査の意義について学び、量的調査と質的調査など、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を実例をもとに概説する。</p> <p><到達目標> 本授業ではこの社会調査の基本的な知識の習得を目的とし、社会調査から得られたデータの読み解きができるようになることを目標とする。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解する。</p> <p><実務経験> 社会福祉士。医療ソーシャルワーカー(MSW)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の経験を活かし、2018年10月より京都精華大学学生相談室キャンパスソーシャルワーカー(CSW)として勤務していた。ソーシャルワークを通して学生を取り巻く心理、福祉問題の解決を行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.導入 社会調査とは何か 2.社会調査の意義と目的 3.量的調査 特徴と種類 4.量的調査 調査票の作成方法 5.量的調査 調査票の配布と回収 6.量的調査 データ分析 7.質的調査 特徴と種類 8.質的調査 調査手続き 9.質的調査 調査手法 10.質的調査 データ分析 11.調査における発表・報告 12.社会調査における倫理と個人情報保護 13.社会調査のIT活用方法 14.社会調査と社会福祉 15.まとめ 		
準備学習	日頃から社会福祉関連のニュース等に触れておくこと。それに伴い、調査結果等の報告があれば、信頼できるものなのかどうかを検討すること。		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座(5)社会調査の基礎 中央法規出版; 第3版 (2013/1/1)		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会調査は、社会的ニーズを把握し、その充足の過程において必要となる利用者理解やサービス評価に必要な客観的な「認識」を得る機能があります。それらを正しく吟味できる能力を身につけ、知識や実践のレベルを高めていきましょう。		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	必修科目
授業科目名	社会保障	担 当 教 官 名	膝 憲之
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	生活と社会保障、社会保険、社会扶助		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会保障は身近でありつつも理解が難しいものである。本講義では日本の社会保障を中心に、社会保障の概要、諸制度、歴史を取り上げ、社会保障の基礎を身につけるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に対応できるレベルまで学習を幅を広げていく。</p> <p>詳細については下記の通りである。</p> <p>①現代社会における社会保障制度の課題(日本社会、少子高齢化と社会保障の関係を含む。)について理解できる。</p> <p>②社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程(歴史)も含めて理解できる。</p> <p>③公的保険制度と民間保険制度の関係について理解できる。</p> <p>④社会保障制度の体系と概要について理解できる。</p> <p>⑤公的保険について理解できる。</p> <p>⑥諸外国における社会保障制度の概要について理解できる。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回…ガイダンス/社会保障の基礎 ①</p> <p>第2回…社会保障の基礎②</p> <p>第3回…社会保障とは何か</p> <p>第4回…社会保障の定義</p> <p>第5回…社会保障の機能</p> <p>第6回…社会保険と社会扶助</p> <p>第7回…社会保障の歴史(欧米)①</p> <p>第8回…社会保障の歴史(欧米)②</p> <p>第9回…社会保障の歴史(日本)</p> <p>第10回…社会保障給付費</p> <p>第11回…社会保障の財源</p> <p>第12回…年金保険①</p> <p>第13回…年金保険②</p> <p>第14回…年金保険③</p> <p>第15回…中間まとめ</p> <p>第16回…年金保険まとめ</p> <p>第17回…健康保険①</p> <p>第18回…健康保険②</p> <p>第19回…健康保険③</p> <p>第20回…健康保険④</p> <p>第21回…労働者災害補償保険①</p> <p>第22回…労働者災害補償保険②</p> <p>第23回…雇用保険①</p> <p>第24回…雇用保険②</p> <p>第25回…介護保険</p> <p>第26回…社会手当</p> <p>第27回…諸外国の社会保障</p> <p>第28回…まとめ①</p> <p>第29回…まとめ②</p> <p>第30回…最終まとめ</p>		
準備学習	<p>予習は特に必要ないが、復習は必要です 日頃より新聞やニュース等に目を通すよう心がけてください。</p>		
教科書・教材等	<p>中央法規出版『社会保障』(第6版)</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義形式 テキストとレジュメを使用</p>		
成績評価の方法	<p>試験、出席、受講態度</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>国家試験で点数が取れるための勉強だけではなく、社会保障とは何かということが理解できるよう講義を進めていく予定です。</p>		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目																
授業科目名	社会理論と社会システム	担 当 教 官 名	船曳美千子/花島正晃																
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年																
必修・選択の別	必修	授業回数	15回																
授業のキーワード	社会の仕組み(システム)、社会と人との関係及び生活の理解、社会問題																		
授業の概要 及び到達目標	<p>精神保健福祉士は、「クライアント」、「(クライアントを)取り巻く環境」、「両者の関係(相互作用)」に着目し、支援していくため、社会の仕組みを知り、社会と人との関係、社会生活、様々な社会問題を理解することは必要不可欠である。本授業では、社会学の基本的な概念や視点を習得し、現代社会における問題を社会学的観点から考えられるようにする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の仕組み、社会と人との関係など、社会学的視点を理解し、習得できるようになる。 2. 現代社会を理解する上で必要な基本的概念を習得できるようになる。 3. 社会問題を社会学的視点からとらえ、理解できるようになる。 <p>【講師紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船曳美千子 公認心理師、精神保健福祉士、社会福祉士を取得。修士(社会福祉学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。 ・花島正晃 精神保健福祉士・社会福祉士・認定心理士。修士(健康福祉学)。大学、短期大学等にて非常勤講師を経験。教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークに従事していた。 																		
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要の説明</td> <td>8. 社会的行為</td> </tr> <tr> <td>2. 社会システム</td> <td>9. 社会的役割</td> </tr> <tr> <td>3. 法・経済と社会システム</td> <td>10. 社会集団と組織</td> </tr> <tr> <td>4. 社会変動</td> <td>11. 社会的ジレンマ</td> </tr> <tr> <td>5. 生活とライフサイクル、ライフコース</td> <td>12. 社会関係資本と社会的連帯</td> </tr> <tr> <td>6. 家族とその変容</td> <td>13. 社会問題とその理解</td> </tr> <tr> <td>7. コミュニティに関する理論 地域社会の変容</td> <td>14. 総まとめ①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総まとめ②</td> </tr> </table>			1. 授業概要の説明	8. 社会的行為	2. 社会システム	9. 社会的役割	3. 法・経済と社会システム	10. 社会集団と組織	4. 社会変動	11. 社会的ジレンマ	5. 生活とライフサイクル、ライフコース	12. 社会関係資本と社会的連帯	6. 家族とその変容	13. 社会問題とその理解	7. コミュニティに関する理論 地域社会の変容	14. 総まとめ①		15. 総まとめ②
1. 授業概要の説明	8. 社会的行為																		
2. 社会システム	9. 社会的役割																		
3. 法・経済と社会システム	10. 社会集団と組織																		
4. 社会変動	11. 社会的ジレンマ																		
5. 生活とライフサイクル、ライフコース	12. 社会関係資本と社会的連帯																		
6. 家族とその変容	13. 社会問題とその理解																		
7. コミュニティに関する理論 地域社会の変容	14. 総まとめ①																		
	15. 総まとめ②																		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習:教科書の該当箇所を事前に読み、アウトラインを把握すること(30分) ・復習:Teamsアップ資料等をもとに知識の定着を図り、理解を深めること(30分) 																		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座 3 社会理論と社会システム(第3版)																		
授業の形式 教育機器の活用	教科書・Teamsアップ資料による講義(双方向形式を含む)、個人ワーク																		
成績評価の方法	定期試験 100%																		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	対人援助において、社会学の概念やその視点は非常に重要です。単に知識を暗記するのではなく、学んだことをもとに、多角的な視点からの考察を意識しながら、主体的に取り組んで下さい。																		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	就労支援サービス	担 当 教 官 名	國定若菜
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	8回
授業のキーワード	雇用 就労 障害者 生活困窮者		
授業の概要 及び到達目標	<p>我が国での「就職が困難な者」は、障害者、母子家庭、ニート、ホームレスなど多岐にわたります。本授業では、これらの人々を支援する専門機関や関連法律の理解します。</p> <p>また、ソーシャルワーカーとして社会的課題を解決するために必要な態度や姿勢を習得することも目的としています。</p> <p>①雇用・就労の動向と労働施策を理解し、説明できる ②障害者と就労支援に基づく支援機関や専門職の役割や違いを理解し、説明できる ③低所得者と就労支援に基づく支援機関や専門職の役割や違いを理解し、説明できる</p> <p>【実務者経験】 2012年から2018年まで就労移行支援事業所にて、就労支援員と管理者に従事する。身体・知的・精神・発達・難病の全障害を対象に、就職と定着に至るまでのサポートと、それに伴う関係機関との調整連携、ケース対応を行う。</p>		
講義計画・内容	<p>1日目：雇用・就労の動向と労働施策 2日目：雇用・就労の動向と労働施策② 3日目：障害者と就労支援（法律や制度） 4日目：障害者と就労支援（支援機関） 5日目：障害者と就労支援（特例子会社や特別支援学校） 6日目：低所得者と就労支援（支援機関と専門職の役割） 7日目：低所得者と就労支援② 8日目：テスト・解説</p>		
準備学習	<p>就労支援サービスで学ぶ障害者総合支援法の訓練等給付の部分について理解しておく。定期的に小テストを行う。直接成績には加味しないが、定期試験につながる内容であるので、小テスト前後は特に予習・復習を行うこと。</p>		
教科書・教材等	中央法規 新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式、ペアワークもしくはグループワーク(感染症拡大の状況を鑑みて)		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	単に受動的に授業に参加するのではなく、「考え」「発言する」能動的な参加を期待しています。		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科/精神保健福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	担 当 教 官 名	小出 享一
対 象 学 生	1年次	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	障害者の自立、障害者差別解消法、障害者自立支援制度		
授業の概要 及び到達目標	<p>障害者が「社会にあってはならない存在」と言われた時代から「青い芝の会」の障害者解放運動、アメリカに端を発する障害者自立生活運動を経て、障害者権利条約及び障害者差別解消法に至るまでの道程を取り上げたい。障害者を取り巻く現状を踏まえ、障害者自立支援に関する法律・制度を理解し、事例を通してその実際を学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。</p> <p>①障害者総合支援法を中心に障害者支援にかかわる法律・制度を学ぶ。 ②制度の担い手となる組織・団体・専門職の役割について学ぶ。 ③多職種連携や障害児の支援についても学ぶ。</p>		
講義計画・内容	<p>①障害を持って生きるということ(自己紹介に代えて) ②障害者を取り巻く社会情勢と生活実態(1) ③障害者を取り巻く社会情勢と生活実態(2) ④障害者にかかる法体系(1) ⑤障害者にかかる法体系(2) ⑥障害者にかかる法体系(3) ⑦障害者にかかる法体系(4) ⑧障害者にかかる法体系(5) ⑨障害者自立支援制度(1) ⑩障害者自立支援制度(2) ⑪障害者自立支援制度(3) ⑫行政・組織・団体の役割 ⑬専門職の役割 相談支援専門員 ⑭多職種連携・ネットワーキング ⑮まとめ</p>		
準備学習	現在、社会にはどのような事件や問題、課題があるか、テレビ、インターネット・新聞などの情報に目を通しておいてほしい。		
教科書・教材等	最新・社会・精神保健福祉士養成講座 第8巻 障害者福祉 (中央法規出版)		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式、新聞記事、DVDの活用		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスは、その影響を受けることが多い。特に障害者福祉関係は、その動きが時代の変化もあり、活発である。また、コロナ禍の影響による社会の変化もあるだろう。障害者福祉もその影響から逃れることは出来ない。そこで新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向に注目しておいてほしい。		

令和5年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	心理学理論と心理的支援	担 当 教 官 名	船曳美千子/花島正晃
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理的機能、心理検査、心理療法、人と環境、発達		
授業の概要 及び到達目標・ 講師紹介	<p>ソーシャルワーカーは、様々な生きづらさを抱えた方を支援する専門職である。したがって、その対象である人間の心身について理解することが求められる。そこで、本授業では、人間の心理的機能、人々の心理的状态を知る「心理検査」、人間の心理的活動等を適応的な方向に働きかける「心理療法」の習得を目指す。また、それらの知識をもとに、個人と集団との関係等についても理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の基本的な事項・概念を理解できるようになる。 2. 心理的な支援について、理解できるようになる。 3. ソーシャルワークにおける支援を、心理学的視点から捉え、理解できるようになる。 <p>【講師紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船曳美千子 公認心理師、精神保健福祉士、社会福祉士を取得。修士(社会福祉学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。 ・花島正晃 精神保健福祉士・社会福祉士・認定心理士。修士(健康福祉学)。大学、短期大学等にて非常勤講師を経験。教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークに従事していた。 		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要、心理学について(心理学の歴史・心理学の分野・福祉実践と心理学) 2. 性格 3. 感情 4. 欲求と動機づけ 5. 感覚・知覚・認知 6. 学習と記憶 7. 知能・創造性・思考 8. 人間環境と集団 9. コミュニケーション 10. 発達 11. 適応とストレス 12. 心理療法 13. 脳と心 14. 総まとめ① 15. 総まとめ② 		
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと(30分) ・Teamsにアップした資料や国家試験の過去問をもとに復習すること(30分) 		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座2 心理学理論と心理的支援(第3版)		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書とTeamsにアップした資料による講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	心理学と福祉学は、密接な関係があります。また、心理学で学んだことは、今後のソーシャルワーク実践で、非常に役立ちますので、この授業をもとに、基本的な概念や心理検査・心理療法の概要を習得をして下さい。		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	人体の構造と機能及び疾病	担 当 教 官 名	枝 智津子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業の概要 及び到達目標	<p>人体の構造と機能および疾病については、基本的な人間の解剖学的学習をはじめ、成長発達から老化などを理解すること、また主な疾病や障害の概要を理解することによって多職種と連携して役割を果たすために重要な学問である。到達目標を下記とし、講義計画・内容に沿って講義を進める。</p> <p>①日本の人口動態・現状を知り、健康概念の歴史や変遷が説明できる。 ②人体の解剖学的名称が言え、疾病と照らし合わせて考えることができる。 ③疾患や障害の病態が説明できる。 ④リハビリテーションの概要と必要性が説明できる。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回 健康のとらえ方、人口統計 第2回・3回 身体の成長発達～老化(各年代の身体・精神の発達) 第4回・第5回 人体部位の解剖学的名称と機能 第6回 第7回 疾病の概要 第8回 第9回 終末期医療と緩和ケア 第10回 第11回 障害の概要 第12回 第13回 リハビリテーションの概要 第14回 まとめ① 第15回 まとめ②</p>		
準備学習	<p>解剖学など人体の部位や機能については疾患を理解するうえで重要なためテキストを熟読し覚えるようにする。定期的に小テストを行う。</p>		
教科書・教材等	<p>人体の構造と機能及び疾病【第3版】</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義・視聴覚機器使用・解剖図資料</p>		
成績評価の方法	<p>定期試験 100%</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>人体における機能や疾病については、医学的内容が含まれるため難しいと感じると思うが、対象を全人的に理解するうえで必要な知識である。臨床で医師やコメディカル、スタッフとチーム医療を行っていくことの重要性を意識して学んでほしい。 授業内で、ゲストスピーカーのお話を聞く時間を考慮する。</p>		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目																														
授業科目名	相談援助の基盤と専門職	担当教官名	関口洋明																														
対象学生	第1学年	履修学期	通年																														
必修・選択の別	必修	授業回数	30回																														
授業のキーワード	社会福祉士の専門性と倫理 ソーシャルワークの価値・知識・技術																																
授業の概要 及び到達目標	<p>相談援助の基盤と専門職科目は、社会福祉士として必要な相談援助の基礎を学ぶことである。 特にクライアントの尊厳と自己決定を理解し、クライアントが自ら生活課題を解決できるような支援を習得することは必須である。本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①ソーシャルワーカーと価値を理解し、説明できる。 ②クライアントの尊厳と自己決定について理解し、クライアントへの関わり方を説明できる。 ③専門職の倫理綱領の知識を把握し、自己覚知ができる。</p>																																
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 社会福祉士の役割と意義</td> <td>16. ソーシャルワーカーと価値</td> </tr> <tr> <td>2. 現代社会と地域生活</td> <td>17. ソーシャルワーク実践と価値</td> </tr> <tr> <td>3. ソーシャルワークの概念</td> <td>18. ソーシャルワーク実践と権利擁護</td> </tr> <tr> <td>4. ソーシャルワークの構成要素①</td> <td>19. クライアントの尊厳と自己決定</td> </tr> <tr> <td>5. ソーシャルワークの構成要素②</td> <td>20. ノーマライゼーションと社会包括</td> </tr> <tr> <td>6. ソーシャルワークの源流①</td> <td>21. 専門職倫理の概念</td> </tr> <tr> <td>7. ソーシャルワークの源流②</td> <td>22. 倫理綱領の意義と内容</td> </tr> <tr> <td>8. ソーシャルワークの基礎確立期①</td> <td>23. 地域を基盤としたソーシャルワークの 基本視座</td> </tr> <tr> <td>9. ソーシャルワークの基礎確立期②</td> <td>24. 地域を基盤としたソーシャルワークの8 つの機能</td> </tr> <tr> <td>10. ソーシャルワークの発展期①</td> <td>25. ジェネラリストソーシャルワークの基 本的視点</td> </tr> <tr> <td>11. ソーシャルワークの発展期②</td> <td>26. ジェネラリストソーシャルワークの特 質</td> </tr> <tr> <td>12. ソーシャルワークの展開期①</td> <td>27.28. 事例検討</td> </tr> <tr> <td>13. ソーシャルワークの展開期②</td> <td>29. 期末まとめ①</td> </tr> <tr> <td>14. 中間まとめ①</td> <td>30. 期末まとめ②</td> </tr> <tr> <td>15. 中間まとめ②</td> <td></td> </tr> </table>			1. 社会福祉士の役割と意義	16. ソーシャルワーカーと価値	2. 現代社会と地域生活	17. ソーシャルワーク実践と価値	3. ソーシャルワークの概念	18. ソーシャルワーク実践と権利擁護	4. ソーシャルワークの構成要素①	19. クライアントの尊厳と自己決定	5. ソーシャルワークの構成要素②	20. ノーマライゼーションと社会包括	6. ソーシャルワークの源流①	21. 専門職倫理の概念	7. ソーシャルワークの源流②	22. 倫理綱領の意義と内容	8. ソーシャルワークの基礎確立期①	23. 地域を基盤としたソーシャルワークの 基本視座	9. ソーシャルワークの基礎確立期②	24. 地域を基盤としたソーシャルワークの8 つの機能	10. ソーシャルワークの発展期①	25. ジェネラリストソーシャルワークの基 本的視点	11. ソーシャルワークの発展期②	26. ジェネラリストソーシャルワークの特 質	12. ソーシャルワークの展開期①	27.28. 事例検討	13. ソーシャルワークの展開期②	29. 期末まとめ①	14. 中間まとめ①	30. 期末まとめ②	15. 中間まとめ②	
1. 社会福祉士の役割と意義	16. ソーシャルワーカーと価値																																
2. 現代社会と地域生活	17. ソーシャルワーク実践と価値																																
3. ソーシャルワークの概念	18. ソーシャルワーク実践と権利擁護																																
4. ソーシャルワークの構成要素①	19. クライアントの尊厳と自己決定																																
5. ソーシャルワークの構成要素②	20. ノーマライゼーションと社会包括																																
6. ソーシャルワークの源流①	21. 専門職倫理の概念																																
7. ソーシャルワークの源流②	22. 倫理綱領の意義と内容																																
8. ソーシャルワークの基礎確立期①	23. 地域を基盤としたソーシャルワークの 基本視座																																
9. ソーシャルワークの基礎確立期②	24. 地域を基盤としたソーシャルワークの8 つの機能																																
10. ソーシャルワークの発展期①	25. ジェネラリストソーシャルワークの基 本的視点																																
11. ソーシャルワークの発展期②	26. ジェネラリストソーシャルワークの特 質																																
12. ソーシャルワークの展開期①	27.28. 事例検討																																
13. ソーシャルワークの展開期②	29. 期末まとめ①																																
14. 中間まとめ①	30. 期末まとめ②																																
15. 中間まとめ②																																	
準備学習	<p>国家資格である社会福祉士の倫理綱領及び行動規範を事前に読み込み、理解しておく。特に実践における倫理的ジレンマを理解することも必要。定期的にミニ試験を行い、直接成績には加味とはならないが、定期試験につながる内容であるので、各自振り返りを行う。</p>																																
教科書・教材等	相談援助の基盤と専門職 中央法規出版																																
授業の形式 教育機器の活用	講義・視聴覚機器利用																																
成績評価の方法	定期試験 100%																																
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	<p>社会福祉士の基盤となる本講義では、ソーシャルワーク成り立ちのみならず社会福祉士の前にひとりの人間として生活課題について考えることができるか。その重要性を学んでいけることを目指しています。国家試験に対応するための知識は最低限必要ですが、なるべく実践に役立つ事例をお話したいと考えています。</p>																																

令和 5 年度京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)		専門科目	
授業科目名	相談援助の理論と方法 I	担 当 教 官 名	米津達也		
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ		
授業のキーワード	人と環境のシステムの理解、相談援助の構造と機能 相談援助の展開 相談援助の基礎技術				
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: 相談援助における構造と機能を基礎的に学び、その上で、実践における相談援助展開過程における技術について学ぶ。長年、高齢福祉分野でケースワークと地域連携を実践し、現在も介護支援専門員としてケースワークやスーパービジョンに臨む教員が、基礎技術の解説と事例を通じた応用学習を展開。学生同士のグループディスカッションを通じて、現場で活かせる実践力と国家試験に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>①相談援助のシステム構造と機能について理解できる ②相談援助の展開過程における基礎技術を学び、国家試験問題をクリアできる ③事例を通じて実践理解を深め、それを他者と共有できる</p> <p><実務者経験> 2006年 社会福祉士 取得 介護老人保健施設にて支援相談員業務 2012年 介護支援専門員 取得 居宅介護支援事業所にて管理者兼介護支援専門員業務 2013年 社会福祉科「相談援助の理論と方法 I・II」担当 2019年 主任介護支援専門員 取得</p>				
講義計画・内容	<p>1～2. 相談援助とは 3～4. 相談援助の構造と機能の理解 5～6. 人と環境の相互作用 7～8. 相談援助における援助関係 9～10. 相談援助の展開過程 I (前編) 11～12. 相談援助の展開過程 I (後編) 13～14. ゲストスピーカー① 15. 本科目のまとめ① 16. 相談援助のためのアウトリーチ 17. 相談援助の展開過程 II 18. 相談援助のためのアウトリーチ 19～20. 契約の技術 21～22. アセスメントの技術 23～24. 相談援助のための介入の技術 25. モニタリングの技術 26～27. 面接技術 28. 記録の技術 29. 相談援助のための交渉の技術 30. 本科目のまとめ②</p>				
準備学習	講義前にテキストにおける対象単元を読み込み、単元目標を理解しておくこと				
教科書・教材等	相談援助の理論と方法 I (第3版)中央法規				
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義 視聴覚機器使用、グループディスカッションによる事例演習				
成績評価の方法	定期試験				
担当教官から (履修に当たっての留意 点)	本講義では、テキストに沿った基礎知識の取得を講義形式にて行います。これにより、国家試験問題に準じた知識の取得が可能になります。また、事例やテーマを通じたグループによる演習を行います。学んだこと、感じたこと、考えたことを他者と共有することで、知識を深く身に付け、実践に活かせる技術を学びます。特にグループ演習に関しては、主体的に参加する心構えを大切にしてください。				

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ	担 当 教 官 名	米津達也
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30コマ
授業のキーワード	相談援助の実践モデルとアプローチ ケースマネジメント グループワーク 社会資源の調整		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: 相談援助における構造と機能を基礎的に学び、その上で、実践における相談援助展開過程における技術について学ぶ。長年、高齢福祉分野でケースワークと地域連携を実践し、現在も介護支援専門員としてケースワークやスーパービジョンに臨む教員が、基礎技術の解説と事例を通じた応用学習を展開。学生同士のグループディスカッションを通じて、現場で活かせる実践力と国家試験に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>①相談援助のシステム構造と機能について理解できる ②相談援助の展開過程における基礎技術を学び、国家試験問題をクリアできる ③事例を通じて実践理解を深め、それを他者と共有できる</p> <p><実務者経験> 2006年 社会福祉士 取得 介護老人保健施設にて支援相談員業務 2012年 介護支援専門員 取得 居宅介護支援事業所にて管理者兼介護支援専門員業務 2013年 社会福祉科「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」担当 2019年 主任介護支援専門員 取得</p>		
講義計画・内容	<p>1～2. 相談援助のための対象の理解 3～4. ゲストスピーカー② 5. ケースマネジメントの技術 6. グループを活用した相談援助 7. コーディネーションとネットワーキング 8. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 9～10. さまざまな実践モデルとアプローチⅠ 11. 3つのモデルの視点とエコロジカルアプローチ 12. 心理社会的アプローチ 13～14. ゲストスピーカー③ 15. 本科目のまとめ① 16. 機能的アプローチ 17～18. 問題解決アプローチ 19～20. 課題中心アプローチ 21. 危機介入アプローチ 22. 行動変容アプローチ 23. エンパワメントアプローチ 24. ナラティブアプローチ 25. 認知アプローチ 26. フェミニストアプローチ、解決志向アプローチ 27. スーパービジョンとコンサルテーション 28. ケースカンファレンス、事例研究 29. 相談援助における個人情報の活用と留意点、情報通信技術の活用 30. 本科目のまとめ②</p>		
準備学習	講義前にテキストにおける対象単元を読み込み、単元目標を理解しておくこと		
教科書・教材等	相談援助の理論と方法Ⅱ(第3版)中央法規		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義 視聴覚機器使用、グループディスカッションによる事例演習		
成績評価の方法	定期試験		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義では、テキストに沿った基礎知識の取得を講義形式にて行います。これにより、国家試験問題に準じた知識の取得が可能になります。また、事例やテーマを通じたグループによる演習を行います。学んだこと、感じたこと、考えたことを他者と共有することで、知識を深く身に付け、実践に活かせる技術を学びます。特にグループ演習に関しては、主体的に参加する心構えを大切にしてください。		

令和5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	相談援助演習 I (A)	担 当 教 官 名	高橋 裕将/専任教員
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必須	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	倫理綱領 相談援助技術 利用者理解 自己覚知 事例研究 多職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>【演習 I (前半30コマ)授業の概要】 ソーシャルワーカーの相談援助技術における、価値・知識・技術について演習 II・相談援助実習とリンクさせながら、総合的に学び、実践できることを目標とする。</p> <p>【演習 I 前半(30コマ)授業の到達目標】</p> <p>①ソーシャルワーカーが相談援助に必要な基礎となる要素(倫理、価値、自己覚知)を持てる様になる。 ②実習や現場で利用できる記録や文章の書き方や対人援助のスキルの基礎を実践する事ができる。 ③ソーシャルワーカーが活躍する領域を理解し、それぞれの課題や支援などをグループワーク、ロールプレイなどを通じて学びを深め、ジェネラリストソーシャルワーカーとしての基礎部分を身につける事ができる。</p> <p><教員経歴(高橋)> 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>		
講義計画・内容	<p>① ソーシャルワーカーの価値と倫理、自己理解・他者理解・省察的思考について学ぶ ② ソーシャルワーカーとしてのエンパワメントについて考える ③④ソーシャルワーカーの活躍する領域と関連する課題を知る ⑤⑥ソーシャルワーカーの活躍する領域と関連する課題を知る ⑦⑧ソーシャルワーカーの活躍する領域と関連する課題を知る、他職種連携を学ぶ ⑨⑩ソーシャルワークの記録の基礎を学ぶ ⑪⑫ソーシャルワークの記録の基礎を学ぶ ⑬⑭コミュニケーション技術の基礎を学ぶ ⑮⑯ソーシャルワークの記録とコミュニケーション技術発展させる ⑰⑱基本的な面接技術を学ぶ ⑲⑳各分野で働くソーシャルワーカーの事例や利用者支援など現場について学ぶ ㉑㉒各分野で働くソーシャルワーカーの事例や利用者支援など現場について学ぶ ㉓㉔ソーシャルワーク演習に必要な知識を振り返り発展させる ㉕㉖ソーシャルワーク演習に必要な知識を振り返り発展させる ㉗㉘ソーシャルワーク演習に必要な知識を振り返り発展させる ㉙ソーシャルワーカーの自己理解・他者理解・省察的思考について考える ㉚ソーシャルワーカーの価値と倫理について考える</p>		
準備学習	随時情報提供するもので自己学習を行う		
教科書・教材等	随時レジュメ等提供する		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式・グループワーク形式		
成績評価の方法	振り返りレポート等の提出で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>ソーシャルワーカーが相談援助を行うにあたって、大切な価値・知識・技術を学んでいきます。前半30コマでは、ソーシャルワーカーを目指すにあたって、必要な業界知識や現場に出た時に役に立つ技術と共に、何よりソーシャルワーカーとしてのマインドの持ち方を皆様と一緒に考えていければと思います。自身の思いや考えだけでの支援は絶対に成り立ちません。この学習をとおして、クライアントと共に悩み、考えていくそんなソーシャルワーカーになれる様に、少しずつ学んで行きましょう。</p>		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	相談援助演習 I (B)	担 当 教 官 名	各務勝博/専任教員
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	ソーシャルワーク援助過程 相談援助事例研究 気づき 自己覚知 相談援助実践力の獲得		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉士相談援助過程を想定し、アウトリーチ・チームアプローチ、ネットワーキング等の相談援助技術について、演習 I (A)、演習 II・相談援助実習とリンクさせながら、実践的な事例研究を通じて獲得していくことを目標とする。また、相談援助場面を想定し、相談援助実習を通じて得た知識と技術を土台にして、ロールプレイ等を通じて実践的な知識と技術として習得することを目標とする。</p> <p>〈教員の経歴:各務〉社会福祉士・介護支援専門員・キャリアコンサルタント・修士(人間科学)。大学卒業後、知的障害者施設支援員、高齢者・障害者へのホームヘルパー派遣コーディネーター、介護支援専門員、訪問介護・居宅介護支援事業所管理者、法人事業統括責任者、職員研修担当者。実践現場での具体的事例の提示や職員へのスーパーバイザー、研修担当者、他大学での相談援助演習・相談援助実習指導の非常勤講師経験(5年)がある。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助演習 I (B)の狙いと概要 2. 相談援助実習での学びをふりかえる 3. 事例研究:既存の事例を通じて学ぶ① 4. 事例研究:既存の事例を通じて学ぶ② 5. 事例作成のためのグルーピング 6. 実習を通じての学びをグループで共有する。 7.8. 事例作成:インテーク 9. 事例作成:アセスメント 10. 事例作成:プランニング 11. 事例作成:介入とモニタリング 12. 事例作成:効果測定と終結・アフターケア 13. 事例の展開① 14. 事例の展開② 15. 事例発表① 16. 事例発表② 17. 事例発表の振り返り 18. 相談援助場面の作成に向けて 19. 相談援助場面を決定する 20. 相談援助場面の内容を考える① 21. 相談援助場面の内容を考える② 22. 相談援助場面の内容を考える③ 	<ol style="list-style-type: none"> 23. 相談援助の展開を考える① 24. 相談援助の展開を考える② 25. 相談援助の展開を考える③ 26. 相談援助の展開を考える④ 27. 相談援助の展開を考える⑤ 28. ロールプレイの発表① 29. ロールプレイの発表② 30. 振り返り 	
準備学習	随時。学生個人で調べることがある。		
教科書・教材等	随時、レジュメ・資料を配布することがある。		
授業の形式 教育機器の活用	講義・個人ワーク・グループワーク		
成績評価の方法	振り返りレポート・まとめレポート80% 出席率20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本授業では、社会福祉士相談援助過程を想定し、アウトリーチ・チームアプローチ、ネットワーキング等について実践的に学んでいきます。具体的には、事例研究、ロールプレイ等の実践を通じて、実習での学びや他教科での学びを、より実践的な知識と技術へと結び付けていきます。		

令和5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	相談援助演習Ⅱ	担 当 教 官 名	濱田 恵/高橋 裕将/専任教員
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必須	授業回数	15回
授業のキーワード	相談援助技術 利用者理解 自己覚知 事例研究 チームアプローチ ネットワーキング		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉士相談援助技術における、価値・知識・技術について演習Ⅰ・相談援助実習とリンクさせながら、総合的に学び、実践できることを目標とする。 また、多くのゲストスピーカーの話から将来の自分の姿を描く。</p> <p><教員経歴(濱田)> 社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活科学修士 福祉系大学を卒業後、高齢者施設にて介護職(6年)、地域包括支援センターにて相談員(13年)の実務経験をもつ。他大学で相談援助実習指導の非常勤講師(8年)の経験がある。</p> <p><教員経歴(高橋)> 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>		
講義計画・内容	<p>1回目 オリエンテーション/自分の課題を通じてソーシャルワークの考え方を学ぶ①</p> <p>2回目 自分の課題を通じてソーシャルワークの考え方を学ぶ②</p> <p>3回目 ソーシャルワーク展開①</p> <p>4回目 ソーシャルワーク展開②</p> <p>5回目 高齢者虐待事例①</p> <p>6回目 高齢者虐待事例②</p> <p>7回目 高齢者虐待事例③</p> <p>8回目 ひきこもり支援事例①</p> <p>9回目 ひきこもり支援事例②</p> <p>10回目 ひきこもり支援事例③</p> <p>11回目 生活困窮者支援事例①</p> <p>12回目 生活困窮者支援事例②</p> <p>13回目 生活困窮者支援事例③</p> <p>14回目 まとめ①</p> <p>15回目 まとめ②</p>		
準備学習	随時情報提供するもので自己学習を行う		
教科書・教材等	随時レジュメ等提供する		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式・グループワーク形式		
成績評価の方法	振り返りレポート等の提出で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉士が相談援助を行うにあたって、大切な価値・知識・技術を学んでいきます。学生の皆さんの積極的な参加を期待します。		

令和5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目																														
授業科目名	相談援助実習	担 当 教 官 名	濱田 恵/高橋 裕将/専任教員																														
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年																														
必修・選択の別	必須	授 業 回 数	23(180時間以上)回																														
授業のキーワード	相談援助 利用者理解 多職種連携 社会福祉士の役割																																
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉士として必要な知識・技術・価値を実習施設(指導者・職員・利用者)から学び、理論と実践を結び付け、実践力をつけることを目標とする。</p> <p><講師の経歴:濱田>社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活科学修士。福祉系大学を卒業後、介護施設での介護職員(6年)、地域包括支援センターでの相談員業務(13年)ののち、専任教員となる。他、他大学で相談援助実習指導の非常勤講師の経験(8年)がある。</p> <p><教員経歴(高橋)> 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>																																
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>(職場実習)</td> <td>(ソーシャルワーク実習)</td> </tr> <tr> <td>1回 施設・事業所の理解①</td> <td>11回 利用者の理解①</td> </tr> <tr> <td>2回 施設・事業所の理解②</td> <td>12回 利用者の理解②</td> </tr> <tr> <td>3回 施設・事業所の理解③</td> <td>13回 利用者の理解③</td> </tr> <tr> <td>4回 施設・事業所と地域の関係性の理解①</td> <td>14回 インテーク面接①</td> </tr> <tr> <td>5回 施設・事業所と地域の関係性の理解②</td> <td>15回 インテーク面接②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>16回 アセスメント①</td> </tr> <tr> <td></td> <td>17回 アセスメント②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>18回 支援計画の作成①</td> </tr> <tr> <td>(職種実習)</td> <td>19回 支援計画の作成②</td> </tr> <tr> <td>6回 社会福祉士の業務理解①</td> <td>20回 支援計画の作成③</td> </tr> <tr> <td>7回 社会福祉士の業務理解②</td> <td>21回 モニタリング①</td> </tr> <tr> <td>8回 他職種の業務理解①</td> <td>22回 モニタリング②</td> </tr> <tr> <td>9回 他職種の業務理解②</td> <td>23回 まとめ</td> </tr> <tr> <td>10回 多職種連携の理解</td> <td></td> </tr> </table>			(職場実習)	(ソーシャルワーク実習)	1回 施設・事業所の理解①	11回 利用者の理解①	2回 施設・事業所の理解②	12回 利用者の理解②	3回 施設・事業所の理解③	13回 利用者の理解③	4回 施設・事業所と地域の関係性の理解①	14回 インテーク面接①	5回 施設・事業所と地域の関係性の理解②	15回 インテーク面接②		16回 アセスメント①		17回 アセスメント②		18回 支援計画の作成①	(職種実習)	19回 支援計画の作成②	6回 社会福祉士の業務理解①	20回 支援計画の作成③	7回 社会福祉士の業務理解②	21回 モニタリング①	8回 他職種の業務理解①	22回 モニタリング②	9回 他職種の業務理解②	23回 まとめ	10回 多職種連携の理解	
(職場実習)	(ソーシャルワーク実習)																																
1回 施設・事業所の理解①	11回 利用者の理解①																																
2回 施設・事業所の理解②	12回 利用者の理解②																																
3回 施設・事業所の理解③	13回 利用者の理解③																																
4回 施設・事業所と地域の関係性の理解①	14回 インテーク面接①																																
5回 施設・事業所と地域の関係性の理解②	15回 インテーク面接②																																
	16回 アセスメント①																																
	17回 アセスメント②																																
	18回 支援計画の作成①																																
(職種実習)	19回 支援計画の作成②																																
6回 社会福祉士の業務理解①	20回 支援計画の作成③																																
7回 社会福祉士の業務理解②	21回 モニタリング①																																
8回 他職種の業務理解①	22回 モニタリング②																																
9回 他職種の業務理解②	23回 まとめ																																
10回 多職種連携の理解																																	
準備学習	自分の実習施設・事業所について、各自調べる。																																
教科書・教材等	随時提示する																																
授業の形式 教育機器の活用	現場実習																																
成績評価の方法	実習日誌の提出及び、実習先からの評価を元に、総合的に評価する。																																
担当教官から (履修に当たっての留意点)	実習は、専門職になるための大事なステップです。お一人お一人との出会い、学びを大切に、積極的に質問など行ってください。																																

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	相談援助実習指導	担 当 教 官 名	濱田 恵/高橋 裕将/専任教員
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	45回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、価値・知識・技術、多職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉士を目指すにあたって、必須である「相談援助実習」に向けての事前学習・実習中の振り返り・事後学習を体系的に行い、最終的には自身のソーシャルワーカー像が思い描けるようにする。</p> <p>当事者に寄り添うとはどういうことか、専門職としてどのような価値・知識・技術が必要なのか、なぜ社会福祉士が必要とされているのか等を体験をもって知り、自分の言葉で伝えられるようにする。</p> <p><講師の経歴:濱田>社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活科学修士。 福祉系大学を卒業後、介護施設での介護職員(6年)、地域包括支援センターでの相談員業務(13年)ののち、専任教員となる。他、他大学で相談援助実習指導の非常勤講師の経験(8年)がある。</p> <p><教員経歴(高橋)> 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>		
講義計画・内容	<p>1.実習の意義、自分のソーシャルワーカー像</p> <p>2.実習領域の種類についての理解</p> <p>3.各領域の理解①</p> <p>4.各領域の理解②</p> <p>5.実習計画書の作成について①</p> <p>6.実習計画書の作成について②</p> <p>7.実習先ごとの事前学習①</p> <p>8.実習先ごとの事前学習②</p> <p>9.実習における個人情報保護</p> <p>10.記録の書き方①</p> <p>11.記録の書き方②</p> <p>12.記録の書き方③</p> <p>13.実習の心構え①(マナー)</p> <p>14.実習の心構え②</p> <p>15,16 事前学習①</p>	<p>17,18,19 事前学習②</p> <p>20,21 事前学習③</p> <p>22,23 実習前半に向けての準備</p> <p>24,25,26 帰校日指導(実習振り返り)</p> <p>27,28,29 帰校日指導(実習振り返り)</p> <p>30,31 中間学習①(グループ学習)</p> <p>32,33 中間学習②(グループ学習)</p> <p>34,35 実習後半に向けての準備</p> <p>36,37 帰校日指導(実習振り返り)</p> <p>38,39,40. 帰校日指導(実習振り返り)</p> <p>41,42 実習まとめ①</p> <p>43,44 実習まとめ②「実習報告会」</p> <p>45 実習まとめ③「自分のソーシャルワーカー像」</p>	
準備学習	各自の実習先について、調べてもらうことがあります。		
教科書・教材等	随時、資料を配布します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義・個人ワーク・グループワーク		
成績評価の方法	実習まとめレポート 80% 出席率 20%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>実習をするにあたっての心構えや事前学習・事後学習を中心に講義を行います。各自が体験したことを発表する機会も多くありますので、積極的な参加を求めます。</p> <p>実習は1人ではありません。受講者全員で、良い実習ができるように、協力をしていければと思います。</p>		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基準)	共通科目
授業科目名	地域福祉の理論と方法	担 当 教 官 名	渡邊 一真・船曳 美千子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	30回
授業のキーワード	住民主体 ボランティア コミュニティソーシャルワーク 地域生活課題 地域包括ケアシステム、地域共生社会		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉法の改正により、これまで以上に地域福祉への期待が高まっている。そのような中、ソーシャルワーカーとして、どの分野で活躍するにしても地域社会、地域住民との協働をもとにした地域福祉の考え方が大きな要素となる。また、地域生活課題の解決にあたっては地域福祉、とりわけコミュニティソーシャルワークの機能が期待されている。さらに、地域共生社会の実現に向けて、令和2年に社会福祉法が改正された。こうした経緯をふまえ、本科目の授業内容で重視する点は以下のとおりであり、これらについて理解できるようにする。</p> <p>①地域福祉の発展過程 ②地域福祉の主体形成の重要性、行政と住民の協働のシステムづくりの視点 ③コミュニティソーシャルワークの機能と住民主体の地域福祉づくり ④地域生活課題の解決と地域包括ケア・ソーシャルサポートネットワーク、重層的支援体制の整備 ⑤社会福祉法人と地域福祉 ⑥福祉ニーズの把握と地域福祉 ⑦災害支援と地域福祉 ⑧諸外国における地域福祉</p>		
	<p>【実務者経験(渡邊)】 2003年 社会福祉士取得 1995年 京都府社会福祉協議会入職 2019年 日本福祉教育・ボランティア学習学会 理事 2021年 京都府社会福祉協議会 総務部福祉経営推進室長</p>	<p>【実務者経験(船曳)】 2003年 社会福祉士取得 2004年 社会福祉学修士号 取得 2007年 法務博士(専門職)取得 2009年 児童に関する相談機関・施設に入職する。 2014年 精神保健福祉士取得 2019年 京都医健専門学校</p>	
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉とは(全体像) 2 地域福祉の推進と福祉教育の歩み 福祉教育の概念と内容 3 社会福祉における地方分権化と地域福祉計画 4 社会福祉協議会の役割と実際 5 社会福祉法人の役割と意義 6 特定非営利活動法人の役割とボランティア活動 7 民生委員・児童委員、保護司 福祉コミュニティと企業の社会貢献 8・9 コミュニティソーシャルワークと専門職の役割 10 住民の参加と方法 11 ソーシャルサポートネットワーク 12 地域における社会資源の活用・調整・開発 13 地域における福祉ニーズの把握方法と実際 14 まとめ① 15 まとめ② 	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉の発展過程① 2 地域福祉の発展過程② 3 行政と住民の協働による新しい地域福祉 4 新しい福祉サービスシステムとしての地域福祉 5 地域福祉理論の発展と広がり 6 地域自立生活支援と地域福祉の理念 7 地域のとらえ方と福祉圏域 8 地域トータルケアシステムの構築と実際 9 地域における福祉サービスの評価方法と実際(第三者評価を含む) 10 福祉サービスのプログラム評価とその展開 11 災害支援の考え方や方法 12 災害支援の実際 13 イギリスの地域福祉 14 アメリカの地域福祉 15 まとめ 	
準備学習	<p>・地域福祉は日々各地で推進されている為、普段から新聞記事等で地域福祉に関するものに意識を向けてほしい。 ・教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと(30分) ・Teamsにアップした資料や国家試験の過去問をもとに復習すること(30分)</p>		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座 第9巻 地域福祉の理論と方法(第3版)及び随時プリント・資料をTeamsにアップする。		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式を基本とするが随時少人数でのワークも行う。		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>地域福祉は住民の主体性がその概念の基本にある。これは社会福祉、ソーシャルワーク全体に共通することであるが、特に地域福祉の視点は各科目を通底する考えになってきている。近年、地域生活課題の解決には公的なサービスだけではなく、住民自らの活動との協働が重視されてきており、専門職養成においても地域福祉の理解はますます重要になってきている。しかしながら、住民の福祉活動への主体的な参加は自然に発生する訳ではない。そこには専門職の力が発揮される必要があり、住民の皆さんの福祉への関心や理解を深め、主体的な活動者になっていただくことも専門職の大きな役割である。また、地域包括ケアシステムの構築においてソーシャルワーカーが果たす役割も大きく、ソーシャルワーカーに対する期待は高まっている。</p> <p>上記の通り、地域福祉は、ソーシャルワーカーとして活躍していくなかで不可欠な分野である。そこで、「準備学習」にも記載があるように、日頃から新聞記事等で地域福祉に関するものに気を付けながら、受講頂きたいと思う。</p>		

2023年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	低所得者に対する支援と生活保護制度	担 当 教 官 名	北尾勝美
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	低所得者 貧困 公的扶助 生活保護		
授業の概要 及び到達目標	<p>貧困の問題に対処してきた社会福祉の歴史は、防貧と救貧を中心に発展してきた。また、今日においては、グローバリゼーションや市場重視などから、ますます必要性・重要性が高まってきている。本授業では、公的扶助の歴史と内容、生活保護制度と低所得者対策、相談線所業務の実際を学び、低所得者に対する支援を行う基礎を身に付けることが授業終了時の到達目標となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公的扶助の歴史と内容を理解する。 2. 生活保護制度と低所得者対策の内容を理解する。 3. 低所得者支援の相談援助業務の実際を学び、援助の基礎を身に付ける。 <p>【実務者経験】</p> <p>2000年 介護支援専門員 取得 2010年 社会福祉士 取得 1996年～2011年 京都市福祉事務所にケースワーカーとして勤務 2012年～現在 社会福祉法人健光園に勤務 2020年～現在 ぱあとなあ京都に所属し、成年後見人・保佐人を受任</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公的扶助の概念 2. 貧困・低所得者問題と社会的排除 3. 公的扶助制度の歴史 4. 生活保護制度の仕組み①(生活保護法の目的と原理、原則) 5. 生活保護制度の仕組み②(保護の種類と内容、方法) 6. 生活保護制度の仕組み③(保護施設、被保護者の権利と義務、不正・不適正受給対策、不服申し立てと訴訟) 7. 生活保護制度の仕組み④(生活保護の財源、予算)、生活保護の運営実施体制と関係機関・団体 8. 最低生活保障水準と生活保護基準 9. 生活保護の申請と要否判定 10. 介護保険と介護扶助 11. 生活保護の動向 12. 低所得者対策の概要 13. 貧困・低所得者に対する相談援助活動、生活保護における自立支援 14. 事例からみた低所得者支援 15. 本科目のまとめ 		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと(毎授業終了時に次回の内容と該当ページ等を知らせる)。教科書及び授業配布プリントに基づき、毎回の授業内容について予復習すること。必要に応じて、自筆ノートに要点をまとめる作業を行うこと。		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座16 低所得者に対する支援と生活保護制度(第5版)		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義形式、個人ワーク、グループワーク		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	新型コロナウイルスの影響を受けて、収入の減少や失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている方が増えています。我が国の低所得者支援制度は、こうした人たちにどのような支援が行えているのでしょうか。この授業では、歴史や制度内容についての理解を深めることと併せて、相談援助の実際や事例を通して学ぶことで、低所得者への支援制度の基礎を身に付けていただくとともに、制度の在り方についても考察していきます。		

令和 5 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	福祉サービスの組織と経営	担 当 教 官 名	花島 正晃
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	社会福祉法人 財務諸表 リーダー理論 等		
授業の概要 及び到達目標	<p><授業の概要> テキストに沿った形で講義資料を準備し、適宜、理解度確認のために、小テストを実施。折に触れて現場の話を変え全体的理解を深めていく。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士国家試験を見据えた講義内容を展開し、試験で得点できる。 ・社会福祉法人に係る法・制度・事業について理解し、説明できる。 ・福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論を理解し、説明できる。 ・福祉サービス提供組織の経営と実際について、基礎的な部分について理解し、それを深めていくことができる。 <p><教員経歴> 社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士・修士(健康福祉学) 福祉実践現場においては、教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークを経験。教育分野では、専門学校専任教員、大学・短期大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の全体の流れについて 2. 社会福祉法人について① 3. 社会福祉法人について② 4. 特定非営利活動法人について 5. その他の組織や団体について 6. 組織に関する基礎理論について 7. 経営に関する基礎理論について 8. 集団力学について 9. リーダーシップに関する理論について① 10. リーダーシップに関する理論について② 11. 福祉サービスの管理運営について① 12. 福祉サービスの管理運営について② 13. 労働環境の整備について 14. 労働環境の整備について 15. まとめ 		
準備学習	「現代社会と福祉」における、社会福祉法人制度誕生前後についての流れを確認しておくこと。その他関連する法律、制度について学習		
教科書・教材等	『新・社会福祉士養成講座 第11巻 福祉サービスの組織と経営 第5版』		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と資料、小テストによる講義		
成績評価の方法	定期試験100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	近年、「社会福祉法人」に加え、財務諸表への基礎的理解など国家試験の出題傾向が幅広くなってきています。そのため、初めから詳細理解を目指そうとすると苦しくなってきますので、それぞれの内容の概要を理解していく学習姿勢が必要となってきます。なお、講義は全体の理解度に応じて順番を前後することや内容を深めるために配分変更を行うことがあります。		

2022 年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	福祉行財政と福祉計画	担 当 教 官 名	五百木 孝行
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	福祉行政 福祉財政 福祉計画 社会福祉基礎構造改革 社会福祉法		
授業の概要 及び到達目標	<p>本講義では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について学びます。特に社会福祉基礎構造改革において、福祉計画が重視され、そこから福祉行政機関や福祉財政の機能や役割も、措置制度時代と比べて位置づけも変わってきています。特に2018(平成30)年改正施行された社会福祉法の理念や概要を学ぶ中で、地域福祉計画等における福祉実践を理解します。</p> <p>①社会福祉基礎構造改革における福祉行財政と福祉計画の理念について、理解し説明できる。 ②地域福祉計画等の実際について、理解し説明できる。 ③社会福祉士試験の「福祉行財と福祉計画」の試験問題を解くことができる。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:はじめに～福祉行財政と福祉計画<概要> 第2回:第1章福祉行財政と福祉計画(1) 第3回:第1章福祉行財政と福祉計画(2) 第4回:第2章 福祉財政(1) 第5回:第3章 福祉財政(2) 第6回:第4章 福祉行政の組織・団体と専門職の役割(1) 第7回:第4章 福祉行政の組織・団体と専門職の役割(2) 第8回:第5章 福祉計画の目的と意義 第9回:第6章 福祉計画の理論と技法(1) 第10回:第6章 福祉計画の理論と技法(2) 第11回:第7章 福祉計画の実際(1) 第12回:第7章 福祉計画の実際(2) 第13回:第7章 福祉計画の実際(3) 第14回:全体のまとめ(1) 第15回:全体のまとめ(2)</p>		
準備学習	<p>福祉行財政と福祉計画を理解するうえで社会福祉制度及び社会福祉基礎構造改革に関する知識は欠かせません。特に、社会福祉行政機関や専門職、福祉財政などの主要な社会福祉制度の基礎的な理解を深めるために教科書の理解は大切です。さらに社会福祉基礎構造改革の内容についても教科書等で事前学習をしていただくことも大切です。</p>		
教科書・教材等	<p>新・社会福祉士養成講座10『福祉行財政と福祉計画第5版』 中央法規 『社会福祉小六法』(最新版)ミネルヴァ書房</p>		
授業の形式 教育機器の活用	<p>講義</p>		
成績評価の方法	<p>定期試験 100%</p>		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>福祉行財政と福祉計画を理解するうえで社会福祉制度に関する知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための知識だけでなく、なるべく福祉現場で役に立つ実務経験の話などもしていきたいと考えています。実務現場をイメージして授業に積極的に取り組んでください。</p>		

2023年度 京都医専専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基準)	共通科目
授業科目名	保健医療サービス	担 当 教 官 名	井上基・大矢昌弘・森田倫子・平山司・武藤章
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	変化・提供施設・システムの理解 ソーシャルワーカーの役割と専門職連携・地域社会資源連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>本授業では、保健医療サービスの基本的な構造と今日的な変化を踏まえて、そこにおける社会福祉専門職の役割と可能性について理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療サービスの全体像を把握するとともに、その中における社会福祉専門職の役割が理解できる。 2. 保健医療サービスを提供する施設とシステムの全体像を把握し、医療保険制度・介護保険制度・公費負担医療制度が理解できる。 3. 医療ソーシャルワーカーの歴史的経過を知り、医療SW業務指針を基礎とした実践現場での実態を知る。 4. 保健医療サービスにおける専門職の役割と、地域の社会資源との連携におけるソーシャルワーカーの役割について理解できる。 <p>【講師所属法人】 医療法人三幸会 北山病院、第二北山病院、介護老人保健施設紫雲苑の他、精神科診療所、訪問看護ステーション、グループホーム(障害)、就労移行(定着)支援事業所、相談支援事業所、グループホーム(高齢)、小規模多機能居宅介護、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、地域包括支援センター等、保健・医療・福祉・介護事業を京都市内で展開。現在、社会福祉士・精神保健福祉士が27名在籍。</p> <p>【実務者経験】</p> <p>●井上基 1993年 医療法人三幸会に入職 介護老人保健施設 支援相談員 1996年 社会福祉士 取得 1997年 在宅介護支援センターセンター長 1999年 介護支援専門員 取得 2000年 居宅介護支援事業所管理者 2002年 精神保健福祉士 取得 2006年 地域包括支援センターセンター長 2007年 主任介護支援専門員 2011年 京都地域包括ケア推進機構事務局出向(京都府) 2014年 医療法人三幸会に帰任 生活サポートセンター兼北山病院相談室部長 2019年9月 京都市認知症疾患医療センター 相談員</p> <p>●大矢昌弘 2001年4月 社会福祉士 取得 医療法人三幸会 第二北山病院 看護部 入職 2001年5月 第二北山病院 相談室 2004年4月 精神保健福祉士 取得 2006年4月 第二北山病院 デイケア 2010年10月 第二北山病院 相談室 2015年4月 就労支援センター・ヒューマンプラス</p> <p>●森田倫子 2002年4月 社会福祉士・精神保健福祉士取得 医療法人三幸会北山病院 相談室 入職 2007年 医療法人三幸会第二北山病院相談室 兼 相談支援事業所北山 2010年 医療法人三幸会北山病院相談室 兼 相談支援事業所北山 2019年 生活サポートセンター・相談支援事業所北山 相談支援専門員</p> <p>●平山司 2005年4月 社会福祉士・精神保健福祉士 取得 医療法人三幸会 北山病院 相談室 入職 2008年4月 医療法人三幸会 第二北山病院 相談室</p> <p>●武藤章 2001年4月 社会福祉士 取得 医療法人三幸会に入職 介護老人保健施設紫雲苑 支援相談員 2006年 京都市岩倉地域包括支援センター社会福祉士 2007年 介護支援専門員取得 介護老人保健施設紫雲苑 支援相談員</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療法における医療施設の機能・類型 保健医療政策による医療施設の機能・類型 2. 地域包括ケアシステムと在宅医療 診療報酬における医療施設の機能・類型 3. 介護保険法における施設等の機能・類型 4. 保健医療サービスの変化と社会福祉専門職の役割① 5. 保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割① 6. 保険医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割② 7. 保健医療サービスの役割① 8. 保健医療サービスの役割② 9. 医療保険制度と診療報酬制度の概要 10. 介護保険制度と介護報酬の概要 公費負担医療制度の概要 11. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践① 12. 保健医療サービスにおける専門職の連携と実践② 13. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践① 14. 保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践② 15. 本科目のまとめ 		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと(毎授業終了時に、次回授業の該当章・節を伝える)。授業後、教科書及び配布プリントを見返すこと。		
教科書・教材等	新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス(第5版)		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	単語を覚えるのみではイメージがし難いため、講師の臨場経験を可能な限り授業に取り入れていきますので、自身の身近なことと関連付けて覚えていく様、心掛けてください。		